

1. 歯科医師臨床研修プログラムの内容

(1) プログラムの名称

浜松医療センター歯科臨床研修プログラム Ver.2

(2) プログラムの目標と特色

浜松医療センターは地域医療支援病院であり、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療の中核拠点病院であるとともに、浜松地域最大級の救急車受け入れ病院(年間約 6400 台)として救急医療にも力を入れている。医科診療科が揃っており、医科歯科連携が取りやすい環境は歯科の初期研修において恵まれた環境といえる。

このプログラムは歯科医師免許取得後2年間の初期臨床研修のためのものであり、将来の専門分野にかかわらず、歯科医師として共通して要求される基本的知識、技術及び態度を修得し、さらに患者を全人的に診る能力を身につけるために、歯科のみでなく関連医科診療科での研修が行えるように計画されている。

(3) プログラム指導者と施設の概要

① プログラム責任者

主) 齧島 桂子 歯科口腔外科部長
副) 林 祐太郎 歯科口腔外科副部長
副) 内藤 慶子 歯科口腔外科医長

② プログラム施設の概要

<単独型臨床研修施設>

浜松医療センター

所在地：〒432-8580 静岡県浜松市中区富塚町 328

臨床研修施設長 海野 直樹 病院長

臨床研修管理委員長 重野 一幸 臨床研修管理センター長

<研修協力施設>

浜松市保健所

所在地：〒432-8550 静岡県浜松市中区鴨江二丁目 11-2

研修実施責任者 西原 信彦 保健所長

③ 指導歯科医リスト

齧島 桂子 (歯科口腔外科 部長)
林 祐太郎 (歯科口腔外科 副部長)
内藤 慶子 (歯科口腔外科 医長)
奥村 圭佑 (歯科口腔外科 医長)

(4) プログラムの評価方法

毎月、臨床研修管理委員会(別紙規程及び委員会名簿有り)を開催してプログラムの状況を評価する。この評価に基づいてその年度の研修プログラムを協議し、必要な箇所の修正を行う。また、臨床研修医の評価などの臨床研修に関連する事項についても協議し、決定する。

(5) 教育課程

研修期間は2年間とし、研修最初の1年次4月にオリエンテーション(院内規程、施設・設備の概要と利用法、健康保険制度、医事法規など)がある。なお、2年間の研修コースは以下の通りである。

研修期間 2年間 (令和5年4月1日～令和7年3月31日)

研修施設：浜松医療センター (24ヶ月) 浜松市保健所 5日

1) 期間割 医科研修時の研修内容は歯科臨床研修評価表に基づき、指導医の指導の下行う。

1	歯科基礎 I (6か月)		病理診断科 (2か月)	循環器内科 (2か月)	歯科基礎 II (2か月)
2	麻酔科 (3か月)	救急科 (2か月)	口腔外科基礎 I (2か月)	口腔外科基礎 II (3か月)	他科研修 (選択制) (2か月)

医科ローテーション終了時に、記入済みの「4.歯科臨床研修評価・評価表」(p52～61)のコピーを、臨床研修管理室所属の医局事務に提出する。歯科口腔外科における研修では、時期にかかわらず、歯科基礎 I・歯科基礎 II・口腔外科基礎 I の確認表(「3. 臨床研修の自己確認表/経験症例数・患者 ID 報告書」p 23～40)内の項目を網羅するように研修が構成されている。歯科口腔外科研修ローテーション終了時に歯科基礎 I・歯科基礎 II・口腔外科基礎 I の確認表の全ページのコピーを提出すること。提出された確認表・評価表は研修歯科医の修了認定に用いられる。

上記の各科ローテーション研修のほか、院内の臨床-病理検討会(Clinico- Pathological Conference : CPC)においても発表を行い、その内容を浜松医療センター学術誌へ論文投稿(2年次、1篇)する。2年次6月を目標に投稿する。

なお、基礎的知識は歯学部在学中に習得されているものとして研修を行う。本研修歯科医手帳にある研修項目を事前に確認し、研修を行う上で不足している知識については教科書等であらかじめ自習し研修に臨むこと。自習にあたり教科書や資料が不十分である場合は、必ず上級医に相談し、指導を受けること。

歯科・各科ローテーションでは本手帳内「4.歯科臨床研修評価・評価表」をあらかじめ確認し研修に臨むこと。特に、医科麻酔科研修では研修希望を事前に登録する必要がある(次頁 2年次 12ヶ月①参照)。

■ 1年次 12ヶ月

①歯科基礎研修 I では、以下を中心に研修する。

その中で経験の乏しい項目の実施については必ず上級医の指導を受ける。

- ・外来患者に対する基本的診察手順の習得
- ・病棟における処置および診療録記載等の入院患者管理の習得
処置：静脈路確保、口腔清掃指導
診療録記載：入院サマリー、退院サマリー、病棟回診内容の記載
- ・局所麻酔手技、単純な抜歯術、切開縫合処置の手技の習得

②病理診断科においては、病理診断科医師の指導の下に以下の研修を行う。

- ・病理組織標本の作製、細胞診、病理診断、剖検等を体験、CPC の準備と発表

③循環器内科においては、循環器内科医師の指導の下に歯科医師として必要な循環器知識を学ぶ。

研修歯科医師としての循環器内科研修水準は「循環器内科・関連医科研修水準」(p19)参照。

④歯科基礎研修 II では、以下を中心に研修する。

- ・障害者歯科、摂食・嚥下機能障害外来での基本的診察手順の習得

障害者歯科：笑気吸入鎮静法、行動調整法、全身麻酔下歯科集中治療症例の術前検査

- 抜去歯牙をもちい、形成充填、根管処置の手技の習得
- 摂食・嚥下機能障害外来：摂食・嚥下機能の発達およびその障害の対応
- ・周術期等口腔機能管理外来での基本的診察手順の習得
- ・地域歯科、医療連携（浜松市保健所、当院患者支援室等での研修を含む）
- ・全身麻酔下歯科集中治療症例の病棟管理
 - 上級医の指示の下に入院サマリー(入院当日までに指導を受けておく)を記載
 - 患者の障害にあわせた病棟管理
 - 研修の進捗状況により、退院サマリー(退院 2 週間以内に上級医確認まで完了する)の記載
- ・全身麻酔下歯科集中治療においてデンタルエックス線写真撮影
- ・抜去歯牙をもちいた齶蝕治療手技の習得後は、上級医の指導の下に全身麻酔下歯科集中治療症例において齶蝕治療

■ 2年次 12ヶ月

①麻酔科研修は「歯科医師の医科麻酔科研修のガイドライン」

(http://kokuhoken.net/jdsa/unav/file/shikaishi_kensyu_guideline_new.pdf) に準じて行う。麻酔科医師の指導の下に周術期における全身管理を習得。

研修歯科医師としての麻酔科研修水準は「麻酔科研修水準」(p20)参照。医科麻酔科研修前にはインターネットによる登録と必要書類の作成および提出が必要である。

麻酔科研修開始日の2か月前(2年次4月1日～の場合は1年次2月)には、本手帳にある「歯科医師の医科麻酔科研修実施の流れ」(p48)を確認し、「医科麻酔科研修を希望する歯科医師の研修歴、臨床経験及び知識・技能評価」(p51)の作成を開始する。麻酔科研修開始1ヶ月前(2年次4月1日～の場合は1年次3月上旬)に、研修歯科医師はインターネット

(http://www.kokuhoken.or.jp/ikamasuika_kensyu) による登録を行い、麻酔科研修終了時にも同様の手続きを行う。麻酔科研修1週間前(2年次4月1日～の場合は1年次3月下旬)に「医科麻酔科研修を希望する歯科医師の研修歴、臨床経験及び知識・技能評価」(p51)を麻酔科部長に提出する。

- ・臨床研修終了後に口腔外科や歯科麻酔科の専攻を希望するものにおいては、この麻酔科研修間に歯科疾患を対象とした全身麻酔(気管内挿管20例以上)を経験しておくことが望ましいとされているので、研修終了後の自身の進路を見据えて研修に取り組むことを推奨する。

②救急科研修では「歯科医師の救命救急研修ガイドライン」

(https://plaza.umin.ac.jp/GHDNet/shika03/guideline_0309.pdf) の二次救命処置研修に準じて行う。

救急科医師および各科医師の指導の下に研修をする。

研修歯科医師としての救急科研修水準は「救命救急研修水準」(p21)参照。

・二次救命処置研修

バイタルサインを把握し身体所見を的確に得ることで、患者の重症度・緊急度の把握
ショックの診断と治療

基本的な二次救命処置(ACLS: Advanced Cardiovascular Life Support)

専門医へのコンサルテーションに必要な知識・技術の習得

- ・口腔外科領域の外傷症例においては、全身状態を把握したうえで、担当歯科医師診察までの間に局所所見をとり、救急科上級医の指導の下に必要な検査・診療準備を行う。口腔外科診察の際は担当歯科医師診察時に症例のプレゼンテーションをする。

③口腔外科基礎 I では、以下の知識と技術を中心に学ぶ。

- ・嚢胞摘出、簡単な顎骨骨折等の基本的な処置および手術手技の習得をする。

・ 静脈鎮静法の手技の習得をする。

④口腔外科基礎Ⅱにおいては、研修プログラム修了後の進路に応じ、必要な歯科・口腔外科領域の手技の習得を行う(歯科基礎Ⅰ・歯科基礎Ⅱ・口腔外科基礎Ⅰの研修内容詳細p14~18に準じる)。

⑤他科研修(選択制)では、歯科医療に関連する他科(小児科・産科・耳鼻咽喉科・形成外科等)で選択研修を行う。各科の医師の指導の下に歯科医師として必要な知識を学ぶ。

研修歯科医師としての選択科研修水準は「関連医科研修水準」(p19)参照。

2) 研修内容と到達目標

1年次は歯科医師としてのプライマリーケアが無難に遂行できる臨床医としての素地を作る期間ととらえ、外来・病棟での研修を通し歯科医師臨床研修管理委員会の定めた一般的目標と具体的目標の達成に努める。

2年次では将来の専門分野を見据え、研修開始時に希望した関連医科診療科で計2ヶ月間の研修を行う。

到達目標については、2. 歯科口腔外科研修の到達目標(p7~)を参照。また、「研修内容の詳細」(p14~18)にある目標症例数を達成出来るよう研修を行う。

3) 教育に関する行事(p74~参照)

当院ならびに研修科の週間予定に従い、カンファレンス、抄読会、勉強会に参加する権利と義務を有し、さらに病院全体で開かれる研修(e-learning 含む)及び研究のための会合に参加する権利と義務を有する。臨床研修管理室主催の研修医定例会(毎月1回)は参加の義務を負う。

4) 研修歯科医の指導体制

医科歯科すべての研修科において、研修責任者を中心にすべてのスタッフが研修医の教育に関わる。研修修了基準として経験症例数を求められる歯科・口腔外科領域では、研修修了に必要な症例が不足なく配当されるよう配慮する。具体的には、歯科基礎Ⅰ・口腔外科基礎Ⅰでは口腔外科担当の指導歯科医・上級歯科医が、歯科基礎Ⅱでは特殊歯科担当の指導歯科医が指導にあたる。指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。

(6) 研修の評価

(「3.臨床研修の自己確認表/経験症例数・患者ID報告書」、「4.歯科臨床研修評価・評価表」使用)

1) 自己評価：医科研修では「4.歯科臨床研修評価・評価表」内の歯科臨床研修評価表を使用して自己にて研修の確認・評価を行う。

歯科基礎Ⅰ・歯科基礎Ⅱ・口腔外科基礎Ⅰにおいては、「3.臨床研修の自己確認表/経験症例数・患者ID報告書」を作成し研修の確認・評価を行う(各ローテーション終了時に研修医・指導医評価が記入された自己確認表・評価表を医局事務に提出すること)。

2) 指導医による評価：医科研修においては、「4.歯科臨床研修評価・評価表」内の各ローテーション科用の歯科臨床研修評価表を用いて評価をする。研修歯科医師が研修項目実施の有無を記載した歯科臨床研修評価表を、医科指導医が確認し評価をする。

歯科基礎Ⅰ・歯科基礎Ⅱ・口腔外科基礎Ⅰにおいては、指導歯科医が、研修歯科医が記入した「3.臨床研修の自己確認表/経験症例数・患者ID報告書」「ポートフォリオ」を確認するとともに研修内容ごとに達成状況の評価をする。この指導歯科医の研修内容ごとの評価を、厚生省の定める歯科臨床研修の到達目標項目に反映させる。

(7) プログラム修了判定の項目・基準

2年次3月に、「ポートフォリオ」「3.臨床研修の自己確認表/経験症例数・患者ID報告書」及び関連医科診療科での「4.歯科臨床研修評価・評価表」を使用し、臨床研修管理委員会にて修了の認定を行う。

臨床研修医はこのプログラムを修了したことを記した「修了証書」を授与される。

■終了判定基準

以下の基準を満たした者について、研修の達成度判定表を臨床研修管理委員会へ提出し、
可否は委員会において決定する。

- 1) CPC で発表し、その内容の院内学術誌投稿が終了している
- 2) 歯科臨床研修評価表：ローテーション各科の、記入済み・確認済みの評価表が提出されている
- 3) ポートフォリオ：全て記入済みである
- 4) 臨床研修の自己確認表：6割が達成されている
- 5) 経験症例数・患者 ID 報告書：研修内容の項目ごとに症例数の8割(少数点以下切り捨て)を経験している

注)症例数の数え方

研修内容の小項目ごとに数える。なお、本プログラムは、挙げられている研修内容を網羅することで診断から治療の一連の手技・知識が得られるように項目を設定している。

(8) 研修歯科医の募集・採用方法

- ア 研修開始日 令和6年4月1日
- イ 募集定員 1名
- ウ 募集方法 公募
- エ 募集時期 令和5年7月頃
- オ 選考時期 令和5年8月頃
- カ 選考方法 書類審査、筆記および面接試験
- キ マッチング あり

(9) 研修歯科医の処遇

- ア 身分 臨床研修医(常勤職員)
- イ 給与 1年次月額25万円程度年額420万円程度
2年次月額30万円程度年額450万円程度
このほか、通勤手当・住居手当等を支給
また、特別手当(期末・勤勉手当)年度計2.5か月分支給
- ウ 勤務時間 8時15分～17時
- エ 休暇 土、日、祝日法に定められた祝日、定められた年末年始、有給休暇、夏期休暇
- オ 時間外勤務 有
- カ 当直 無
- キ 宿舎 有(借り上げ宿舎)
- ク 研修医室 有(LAN利用可能)
- ケ 社会保険・労働保険 全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険等加入
- コ 健康診断 年1回
- サ 医療事故対応 病院賠償保険に加入、個人加入
- シ 研修活動 学会、研修会等への参加可、病院による費用負担無
- ス 研修協力施設における処遇の運用 単独型臨床研修施設と同一の処遇

(令和5年4月1日現在)

1.臨床研修委員会責任者

職・氏名	臨床研修管理センター長（プログラム責任者）	重野一幸
------	-----------------------	------

2.臨床研修管理委員会委員名簿

職名		氏名
委員長	臨床研修管理センター長	重野一幸
副委員長	臨床研修管理副センター長	小林 祥
委員	歯科口腔外科部長	靱島桂子
委員	周産期センター長	芹沢麻里子
委員	肝臓内科部長	影山富士人
委員	呼吸器内科部長	佐藤 潤
委員	循環器センター長	武藤真広
委員	血液内科部長	内藤健助
委員	膠原病リウマチ内科部長	高取宏昌
委員	脳神経内科部長	伊藤充子
委員	内分泌代謝内科部長	長山浩士
委員	耳鼻いんこう科部長	荒井真木
委員	麻酔科部長	永田洋一
委員	小児科部長	宮本 健
委員	病理診断科部長	森 弘樹
委員	救命救急センター副センター長	澤下光二
委員	救急科医長	水谷敦史
委員	消化器外科	臼井佑季
委員	診療放射線技術科長	中村文俊
委員	臨床検査技術科長	中村孝始
委員	薬剤科長	川口千佳
委員	看護部副部長	渡辺富美
臨床研修担当院長補佐（オブザーバー）		緒方 勤
委員	公社事務局次長	高井伸浩
委員	総務課長補佐	鈴木健之
研修実施責任者	浜松市保健所長	西原信彦
外部委員	静岡県歯科医師会	柳川忠廣

3.臨床研修管理室

臨床研修管理センター長：重野 一幸（プログラム責任者 兼 化学療法科部長）

臨床研修管理センター副センター長：小林 祥（専門医研修管理室長 兼 整形外科医長）

室 員：水谷 敦史（救急科）武田明日美（腎臓内科）宮本 健（小児科部長）

細谷奈津子（循環器内科）臼井 佑季（消化器外科）

事務担当：人事課医局係 内線 1400

（令和5年6月現在）

2. 臨床研修の到達目標

[研修の目標]

歯科医師免許取得後2年間の初期臨床研修のためのものであり、将来の専門分野にかかわらず、患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力(態度、技能及び知識)を身に付け、生涯研修の第一歩とすることを目標とする。

[研修のねらい]

- ①歯科医師として好ましい態度・習慣を身に付け、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
- ②全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- ③歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身に付ける。
- ④一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- ⑤歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
- ⑥自ら行った処置の経過を観察評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身に付ける。
- ⑦専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修の意欲への動機付けをする。
- ⑧歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

[研修コース]

	歯科口腔外科(計 13 か月)	医科(計 11 か月)
1 年次	歯科基礎Ⅰ 歯科基礎Ⅱ	病理診科 循環器内科
2 年次	口腔外科基礎Ⅰ 口腔外科基礎Ⅱ	麻酔科 救急科 選択科

[到達目標]

「A.歯科医師としての基本的価値観」「B.資質・能力 1.医学・医療における倫理性」については、研修歯科医師自身が自らの行動を律し、当院の理念に基づき行動し、研修項目の全てに積極的に取り組むことで到達可能な研修構成となっている。歯科専門分野に限らず、関連医科や関連多職種の指導を受けられることで到達度を高める。

「B.資質・能力 2.-9.」に対応する具体的な到達目標である「C.具体的診療業務」の内容を、当院での2年間の研修で多角的に達成可能とする研修構成としている。

A. 歯科医師としての基本的価値観

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する医療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診察を行う。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わるすべての人々の役割を理解し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

8. 科学的探求

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたってともに学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者とともに研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C. 具体的診療業務（B. 2-9 の具体的な到達目標） 次頁より詳細一覧

1. 基本的診療能力等（B. 2-5）

- (1) 基本的診察・検査・診断・診療計画
- (2) 基本的臨床技能等
- (3) 患者管理
- (4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等（B. 6-9）

- (1) 歯科専門職間の連携
- (2) 多職種連携、地域医療
- (3) 地域保健
- (4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

C. 具体的診療業務 一覧

1. 基本的診療能力等		選択項目から必ず1項目以上選択する					
必修	選択	(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画					
●		①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。					
●		②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。					
●		③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。					
●		④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。					
●		⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し立案する。					
●		⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。					
必修	選択	(2) 基本的臨床技能等					
●		①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。					
●		②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。					
●		a. 歯の硬組織疾患	b. 歯髄疾患	c. 歯周病	d. 口腔外科疾患	e. 歯質と歯の欠損	f. 口腔機能の発達不全、 口腔機能の低下
●		③基本的な応急処置を実践する。					
●		④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。					
●		⑤診療に関する記録や文書(診療録、処方箋、歯科技工指示書等)を作成する。					
●		⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。					
必修	選択	(3) 患者管理					
●		①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤について説明する。					
●		②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。					
●		③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。					
●		④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。					
	●	⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。					
必修	選択	(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供					
●		①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。					
●		②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。					
	○	③在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。					
	●	④障害を有する患者への対応を実践する。					

●は当院の研修に含まれる項目

C.具体的診療業務 一覧

2.歯科医療に関連する連携と制度の理解等		選択項目から必ず2項目以上選択、少なくとも(2)の項目を含む
必修	選択	(1) 歯科専門職間の連携
●		① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
●		② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
●		③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。
必修	選択	(2) 多職種連携、地域医療
●		① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
●		② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
	○	③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。
	○	④ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
	○	⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。
	●	⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
	●	⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
	●	⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
必修	選択	(3) 地域保健
●		① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
●		② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
	○	③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。
	●	④ 歯科検診を経験し、地域住民に対する健康保健教育を経験する。
必修	選択	(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解
●		① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
●		② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を实践する。
●		③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

●は当院の研修に含まれる項目

		対応コード
A. 歯科医師としての 基本的価値観	1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	A1
	2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	A2
	3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	A3
	4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	A4

		対応コード
B. 資質・能力	1. 医学・医療における倫理性 診察、研究、教育に関する倫理的問題を認識し、適切に行動する。	B1
	2. 歯科医療の質と安全管理 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。	B2
	3. 医学知識と問題対応能力 最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する医療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。	B3
	4. 診療技能と患者ケア 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診察を行う。	B4
	5. コミュニケーション能力 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係を築く。	B5
	6. チーム医療の実践 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わるすべての人々の役割を理解し、連携を図る。	B6
	7. 社会における歯科医療の実践 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。	B7
	8. 科学的探求 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。	B8
	9. 生涯にわたってともに学ぶ姿勢 医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者とともに研鑽しながら、後進の育成にも携わり、障害にわたって自律的に学び続ける。	B9

C.具体的診療業務	1.基本的診療能力等	2.歯科医療に関連する連携と制度の理解等
	(1)基本的診察・検査・診断・診療計画	(1)歯科専門職間の連携
	(2)基本的臨床技能等	(2)多職種連携、地域医療
	(3)患者管理	(3)地域保健
	(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供	(4)歯科医療提供に関連する制度の理解

	≥1	1.基本的診療能力等										対応コード	目標症例数	
		(1)基本的診察・検査・診断・診療計画										11		
必修		①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。										111	19	
必修		②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。										112		
必修		③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。										113		
必修		④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。										114		
必修		⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し立案する。										115		
必修		⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。										116		
		(2)基本的臨床技能等										12		
必修		①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。										121		
必修		②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。										122a-122f	24	
		a.歯の硬組織疾患	13	b.歯髄疾患	20	c.歯周病	28	d.口腔外科疾患	42	e.歯質と歯の欠損	14	f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	11	a-f各項目欄へ表記
必修		③基本的な応急処置を実践する。										123		
必修		④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。										124	43	
必修		⑤診療に関する記録や文書(診療録、処方箋、歯科技工指示書等)を作成する。										125		
必修		⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。										126		
		(3)患者管理										13		
必修		①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤について説明する。										131	17	
必修		②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。										132		
必修		③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。										133	32	
必修		④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。										134		
	選択	⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。										135	34	
		(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供										14		
必修		①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。										141		
必修		②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。										142		
	選択	③在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。										143		
	選択	④障害を有する患者への対応を実践する。										144	13	

C.具体的診療業務	1.基本的診療能力等	2.歯科医療に関連する連携と制度の理解等
	(1)基本的診察・検査・診断・診療計画	(1)歯科専門職間の連携
	(2)基本的臨床技能等	(2)多職種連携、地域医療
	(3)患者管理	(3)地域保健
	(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供	(4)歯科医療提供に関連する制度の理解

	≥2 要(2)	2.歯科医療に関連する連携と制度の理解等	対応コード
		(1)歯科専門職間の連携	21
必修		①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	211
必修		②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	212
必修		③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	213
		(2)多職種連携、地域医療	22
必修		①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	221
必修		②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	222
	選択	③在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。	223
	選択	④訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する	224
	選択	⑤離島やへき地における地域医療を経験する。	225
	選択	⑥がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	226
	選択	⑦歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解	227
	選択	⑧入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	228
		(3)地域保健	23
必修		①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	231
必修		②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	232
	選択	③保健所等における地域歯科保健活動を経験する。	233
	選択	④歯科検診を経験し、地域住民に対する健康保険教育を経験する。	234
		(4)歯科医療提供に関連する制度の理解	24
必修		①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	241
必修		②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	242
必修		③介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	243

歯科一般基礎

研修の内容、方法		到達目標(行動目標)コード	目標 症例数
医療記録の参照・記載・管理			
医療記録の参照	診療記事記載を参照する	112,113,241	
	画像・検査結果を参照する		
	手術記録・麻酔記録を参照する		
医療記録の 入力	SOAP	SOAPを理解し、SOAPの形式で入院患者の医療記録を入力する	10
	サマリー	入院時サマリーの記載をする(埋伏智歯抜歯)	5
		退院時サマリーの記載をする(埋伏智歯抜歯)	5
	手術記録	埋伏歯抜歯の手術記録の記載をする	3
		埋伏歯以外の手術記録の記載をする	2
入退院時の医療 文書作成	入院加療の目的・経過を把握し、入院診療計画書を作成する	125,228	3
	退院に必要な条件を理解し、退院時説明書を作成する(埋伏智歯抜歯)		3
検査のオーダー			
画像	パノラマ	症例ごとに必要な画像検査を列挙し、パノラマエックス線写真のオーダーをする	2
	CT予約	画像検査の必要性・緊急性を判断し、必要な画像検査のオーダーをする	1
	緊急CT		2
血液	平日	各症例に必要な血液検査の項目を列挙し、オーダーをする	2
	休日		2
	培養	血液培養検査の意義と手技を理解し、オーダーをする	
生理		12誘導心電図のオーダーをする	
		肺機能検査のオーダーをする	
処 方			
入院患者の 薬剤管理	持参薬	持参薬の内容を把握し、管理方法・内服・休薬の指示を出す	3
	必要時指示	必要時に使用する内服薬・注射剤・外用薬の処方をする	
	臨時処方	入院患者の内服薬・外用薬の臨時処方をする	
	退院時処方	入院患者の内服薬・外用薬の退院時処方をする(埋伏智歯抜歯)	3
	災害時	手書き処方箋の記載方法を理解し、記載をする	
	注射剤	成人患者における術前・術後の輸液・注射剤の必要性を理解し、オーダーする(埋伏智歯抜歯)	3
	外用薬	歯科で処方ができる外用薬を把握し、含嗽・坐剤の処方をする(埋伏智歯抜歯)	3
バ ス			
バスでの入院管 理		クリニカルバスを理解し、発行をする(埋伏智歯抜歯)	1
		クリニカルバスが適応された患者の経過を把握、退院を検討する(埋伏智歯抜歯)	3

一般手技

研修の内容、方法		到達目標(行動目標)記号	目標 症例数
処 置			
静脈路確保	翼状針と留置針の違いを理解し、適切に使用する	A4,B1-3,B9,123,126,134,135	
	入院患者の静脈路確保をする(下顎骨形成術)	A4,B1-5,111,116,123,126,134,135,241	5
	上記、がん治療目的、人工透析中以外の入院患者の静脈路確保をする		5
創部処置	埋伏歯	A4,B1-5,B9,111-113,116,121,122c,112d,134,135,211	
	下顎骨形 成・外傷	顎間固定の必要性と手技を理解し、顎間固定を経験する	1
		頬部ドレーン抜去の可否を判断することができ、ドレーン抜去を経験する	2
		顎間牽引の方法を指導する	

外来における基本的手技

研修の内容、方法		到達目標(行動目標)記号	目標症例数
医療面接等			
適切な医療面接	外来初診患者の間診を適切に行う	A1-3,B1-5,111,114,122,126,132,134,141,142,144	3
	患者の主訴・現病歴・既往歴を把握する	B1-4,111,114,122,126,132,134,144	
	口腔外科での加療において注意すべき薬剤の使用歴があるかどうかを把握する	B2-4,111,122,126,131,132,134,144	
	エックス線・MRI・造影剤使用など各種画像検査の可否を判断する	B2-4,111,114,122,126,132,141	
バイタル測定	SpO2	血中酸素飽和度(SpO2)低下時の対応をする	B1-3,B9,124,133,34,144
	血圧	血圧測定をする	A3,B2-5,111,124,133,134,144
	心電図	II誘導心電図波形を理解し、3点誘導心電図をとる	A3,B1-5,B9,111,124,133,134,144
歯科技工関連事項の習得			
印象採得・模型	アルジネートでの印象採得を適切に行う	A4,B2,B4,B5,B9,111,116,121,122d,123,126,133,134,211,241,242	
	採得した印象の感染対策処理をする(浸漬する消毒薬の作成、適切な浸漬)	B2,B6,123,211,212	3
	採得した印象に石膏を流し、作業模型を作製する	B2,B4,121,123,211,212	
技工指示書	技工指示書の記入項目を理解し、作成する	A4,B6,B9,122de,125,211,212,241,242	
局所麻酔手技の修得			
浸潤麻酔	各症例にあった局所麻酔薬を選択し普通抜歯目的の局所麻酔をする	A,B1,B2,B4,B5,B9,111,116,122b-d,123-126,131-134,241,242	2
	各症例にあった局所麻酔薬を選択し歯肉膿瘍切開目的の局所麻酔をする		1
切開・縫合手技の習得			
口腔内切開	メス刃の形状の違い・特徴を理解し、各症例に適した粘膜切開をする	A4,B2,B9,113,122d,123,126	
口腔内縫合	縫合針の種類と特徴を理解し、弯針を用いた粘膜縫合をする	A4,B2-4,B9,122d,12,126,134	
	外傷患者の縫合時に注意すべき事項を列挙し、貫通創ではない口腔粘膜の裂創を縫合する	A,B1-7,B9,11,122d,123-126,132-134,241,242	1
抜歯手技の習得			
普通抜歯	普通抜歯をする	A2,A3,B2,B4,B5,B7,111,116,122b-d,125,126,133,134,241,242	5
顎関節障害の非観血的対応の習得			
脱臼	必要な画像をオーダーし、画像の評価をする	A2-4,B1-4,B9,113,121,122d,123,126,134,241,242	1
	顎関節脱臼の整復をする	A2-4,B1-5,B9,11,122d,123-126,133,134,241,242	1
開口障害	手指での開口訓練の指導をする	A2,A4,B1-5,B9,11,121,122d,123-126,133,134,241,242	
	木製開口訓練器を用いた開口訓練の指導をする		
地域歯科、医療連携について学ぶ			
地域歯科	当院の地域歯科医療における役割を理解し日常診療に役立てる	A1,A4,B1,B2,B6,B7,B9,221,222,231,24	
	障害者歯科学会/有病者歯科医療学会に参加し、地域歯科医療・訪問歯科診療について学ぶ	A4,B1,B2,B6,B7,B9,211,221,222,231,24	
	訪問歯科診療を説明する	B5,111,141,142,144,211,221,222,231,224	
医療連携	紹介状に記載すべき事項を理解し、紹介状を作成する	A1,A4,B1,B2,B7,B9,125,132,41,242	
	医療連携室の運営を知っている	A4,B2,B7,B9,132,241,242	
使用済み診材の処理ができる			
再使用器材	診療に使用した器材の洗浄・消毒・滅菌を理解する	A1,A4,B1-3,B9	
廃棄物	診療後の廃棄物を適切に処理する	A1,B1,B2,241	

障害者歯科外来

			研修の内容、方法	到達目標(行動目標)コード	目標症例数	
障害者 歯科 外来	齧 蝕 歯 に 対 す る 治 療	形成充填	I級・V級の窩洞形成をする	A1,A4,B2,B4,B9,121,122a		
			光重合レジンでの充填をする	B2,B4,121,122a,122b,122e,123		
			印象採得をする	B2,B4,B5,111,116,121,122a,126,133,134,211,241,242		
		抜髄根充処置	前歯・臼歯の抜髄をする	A1,A4,B1,B2,B4,B9,11,121,122b,122d,123,242		
			前歯・臼歯の根管充填(加圧根充)をする	A1,A4,B2,B4,B9,121,122b,122d,123,242		
			充填後の確認・評価をする			
		感染根管処置	前歯・臼歯の金属補綴物除去をする	A1,A4,B1,B2,B4,B9,11,121,122a-e,242		
			前歯・臼歯の感染根管の清掃をする	A1,A4,B1,B2,B4,B9,11,121,122b,123,242		
			前歯・臼歯の根管貼薬をする	A1,A4,B2,B4,B9,121,122b,123,242		
			前歯・臼歯の仮封をする・仮封の除去をする			
	修復物等の脱離への対応	金属製歯冠補綴物の脱離時の対応・再装着を説明する	B2,B4,B9,121,122a,122d,123,126			
		金属補綴物の誤飲・誤嚥時の対応方法を知っている	A4,B2-4,B9,121,122a,122d,123,126,134			
		金属補綴物の再装着を経験する	A,B2-5,B9,11,121,122a,122d,123,125,126,134,242			
	デンタルエックス線写真撮影手技の習得	デンタルエックス線写真撮影の必要性を説明する	A3,B2-5,121,122a-e,123,126,135			
		二等分法で撮影する	A,B2-5,B9,11,121,122a-e,123,125,134,242	1		
	使用済み診材の処理	診療に使用した器材の洗浄・消毒・滅菌を理解する	A1,A4,B1-3,B9			
		診療により生じた廃棄物を適切に処理する	A1,B1,B2,241,242			
	外来 診療	行動調整法	笑気鎮静法	笑気鎮静法の適応・注意事項を知っている	A3,A4,B1-4,B9,11,124,126,132-134,144	
				笑気鎮静法を用いた外来診療を経験する	A3,A4,B1-4,B9,11,124,126,132-134,144,241,242	1
			抑制法	抑制法を理解し、行う際の注意事項を知っている	A3,A4,B1-4,B9,124,126,132-134,144	
tell-show-do法を知っている				A3,A4,B1-4,B9,124,126,132,144		
tell-show-do法を用いた外来診療を経験する				A3,A4,B1-4,B9,11,124,126,132-134,144,241,242	1	
10カウント法を知っている				A3,A4,B1-4,B9,124,126,132,144		
10カウント法を用いた外来診療を経験する		A3,A4,B1-4,B9,11,124,126,132-134,144,241,242	1			
予防歯科		フッ化物塗布・シーラントを経験する	A3,A4,B1-4,B9,121,122a,124,126,132,141,144,211,242	1		
全身麻酔適応症例への対応		術前検査	全身麻酔下 集中歯科治療について知っている	A3,A4,B1-4,B9,121,122a-d,124,126,13,144,211,213,241,242		
			障害者に配慮した、全身麻酔の術前検査を経験する	A3,A4,B1-4,B9,121,122d,123,124,126,132,134,135,144,211,213,241,242		

摂食・嚥下機能障害外来

			研修の内容、方法	到達目標(行動目標)記号	目標症例数
摂食・ 嚥下 機能 障害 外来	外来 診療	小児の摂食・嚥下機能の発達を理解する	離乳食について知っている	B2,B4,B9,141,142	
			乳歯の萌出時期を知っている		
			乳児・小児の摂食・嚥下機能の発達を理解する		
			乳児・小児の身体の成長・発達について知っている		
		小児の摂食・嚥下機能の障害を理解する	過敏について知っている	B2,B4,B9,141,142,144	
	捕食機能の障害への対応を経験する		A4,B2,B4,B9,122f,141,142,241,242	1	
	押しつぶし機能の障害への対応を経験する			1	
	すりつぶし機能の障害への対応を経験する			1	
	手づかみ食べ機能の障害への対応を経験する			1	
	食具食べ機能の障害への対応を経験する	1			

院内チーム活動

			研修の内容、方法	到達目標(行動目標)記号	目標症例数
チ ー ム 活 動	を チ リ 解 ム す 医 療	栄養サポート	院内のNST活動を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,126,141,142,144,213,228	
			チーム活動における多職種連携を理解する		
			NSTのカンファレンスに参加する	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,122f,126,141,142,144,213,228,242	
			障害チームのカンファレンスに参加する		

全身麻酔下集中歯科治療

		研修の内容、方法	到達目標(行動目標)記号	目標症例数
全身麻酔下集中歯科治療	集中歯科治療の対応ができる	診療録記載	入院患者の診療録記載をする	B1-4,B6,B9,115,122a-d,125,135,144,213,242
		処置・回診	障害にあわせた病棟管理を経験する	A2-4,B1-4,111,116,124,126,13,144,213,241,242
		周術期管理	全身麻酔下での集中歯科治療を経験する	A2-4,B2-4,B6,B9,121,122a-d,131,132,144,211,213,241,242
			デンタルエックス線写真撮影(口内法)をする	A4,B2,B9,121,122a-e,144,211,241,242
		周術期の全身管理を経験する	A2-4,B1-4,B6,B9,111,116,131,132,134,135,144,213	

周術期口腔機能管理

		研修の内容、方法	到達目標(行動目標)記号	目標症例数	
周術期等口腔機能管理	周術期口腔機能管理を理解・実施するとともに、基本的な歯科診療を实践する		口腔外科・医科の症例の周術期口腔機能管理を実施する	A1,A4,B1-7,B9,11,121,122-126,131-134,141,142,144,211,213,226,227,242	
			周術期口腔機能管理の必要性を説明する(同意書)	A2,A3,B1,B5,111,116,226,242	
		画像	必要な画像検査の説明・オーダーをする(パノラマ・CT)	A3,B2-5,111-113,125,126,226,242	2
		義歯	義歯の適合を評価し、必要な調整を行う	A2-4,B1-5,B7,B9,11,121,122e,123,125,126,134,242	
		歯周炎治療	歯周基本検査を実施、歯周炎について説明する	A,B1-7,B9,11,121,122c,124-126,132-134,242	2
			歯石除去の必要性を説明する		
			超音波スケーラーを用いて歯石を除去する		2
			咬合調整の必要性を説明し実施する		
		動揺歯の固定の必要性を説明し実施する	A,B1-7,B9,11,121,122a,122c,124-126,132-134,242		
			継続した歯科受診の必要性を説明する	A,B1-7,B9,11,121,122c,124-126,132-134,242	
		文書作成	周術期口腔機能管理計画書を作成する	A,B1-4,B6,B9,115,125,213,226,228,242	2
			周術期口腔機能管理報告書を作成する		2
		抗がん剤	口腔粘膜炎を生じやすい抗がん剤を知っている	A1,A4,B2-4,B7,B9,121,122d,123,126,131,132,134,211,213,226,242	
			分子標的薬を知っている		
		粘膜炎	口腔粘膜炎の予防ならびに発症時の管理を行う		
BMA	BMAならびにBMA関連顎骨壊死を理解する	A2,A3,B1,B5,111,116,122d,126,134,222,226,242	2		
	BMA関連顎骨壊死について説明する(同意書)				
計画・管理	口腔清掃指導をする	A,B1-7,B9,11,121,122,124-126,132,134,211,213,226,242	3		
	頭頸部がんの加療を受ける患者の口腔管理を計画する	A,B1-4,B6,B9,11,121,122d,125,126,134,141,142,211,213,226,228,242	1		

		研修の内容、方法	到達目標(行動目標)記号	目標症例数	
連携・制度	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,144,221,222,228,231,232		
		浜松市における地域包括ケアシステムに関する資料を収集する	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,144,221,222,228,231,232,24		
		地域包括ケアシステムにおける当院の役割を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,144,221,222,228,231,232,24		
		地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,144,221,222,228,231,232,24		
	介護保険	介護保険を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,144,228,231,232,24		
		歯科医師が担う介護上の役割を理解する	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,144,221,222,228,231,232,24		
	地域保健	浜松市にある保健・福祉施設を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,144,221,222,227,228,231,232		
		保健・福祉施設の運営に携わる職種を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,221,222,227,228,231,232		
		浜松市保健所の役割を知っている	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,221,222,227,228,231,232		
		浜松市保健所の業務を経験する	A1,A4,B1-4,B6,B7,B9,141,142,221,222,227,228,23,241,242		
		地域保健活動の一環として歯科検診を経験する			
	法規制	個人情報保護	診療録閲覧における個人情報保護の必要性を理解する	A,B1-3,B8,B9,241	
			医療連携の際に個人情報保護を適切に行うことができる	A,B1-3,B9,135,241,242	
			入院患者の個人情報保護に配慮した病棟管理ができる	A,B1-3,B7,B9,125,132,211,212,24	
		医療法等	医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解する	A,B1-3,B7,B9,125,132,211,212,24	
医療保険制度を理解し、適切な保険診療を实践する			A,B1-7,B9,11,12,132,-135,211,212,234,24		

口腔外科基礎 I

研修の内容、方法			到達目標(行動目標)記号	目標症例数		
簡単な口腔外科手技の習得	嚢胞摘出術	画像を評価し、適切な手術の計画を立てる	A4,B2,B4,B5,B9,111,113,115,122d,126,134			
		拔牙・嚢胞摘出術を行う	A,B1-7,B9,111,116,121,122d,125,126,134,241,242	1		
	歯根端切除術	症例にあった切開線を提示する	A4,B2-5,B9,113,115,022d,126,134			
		該当歯の根管充填の評価をする	A4,B2-4,B9,113,115,112b,122d,126,134,242			
		歯根端切除術を行う	A,B1-7,B9,111,116,121,122d,125,126,134,241,242	1		
	下顎埋伏歯抜歯	下顎埋伏智歯抜歯をする		1		
	顎骨骨折	画像	頭部外傷の注意事項を説明する	A4,B1-4,B7,B9,122d,122e,123,124,126,131-134,213,241		
			必要な画像をオーダーし、評価する	A,B1-74,B7,B9,112-114,122d,122e,123-126,131-134,241,242	1	
		顎骨・歯槽骨単純骨折	骨折線と骨片の変位を理解し、顎間固定の必要性を説明する	A,B1-5,B7,B9,11,121,122d,122e,123,126,134,213	1	
			MMシーネの装着を経験する	A,B1-5B7,B9,111,116,121,122d,122e,123-126,131-134,241,242		
			MMシーネ装着中の口腔清掃の指導をする	A,B1-6,B9,111,112,116,121,122a,122c-e,126,134,211,242		
		顔面骨折	顎間固定中の注意事項を説明する	A,B1-5,B7,B9,11,121,122d,122e,123,126,134,135,211,288		
			眼窩底骨折とその注意事項、手術適応を理解する	A4,B1-4,B9,122d,122e,123,126,134,213		
	外傷歯の対応を習得する	永久歯	頰窩底骨折とその手術適応を理解する			
			亜脱臼	亜脱臼歯の保存の可否・予後を理解する	A,B1-5,B7,B9,111,116,121,122b,122d,122e,123,126,134,213,242	
				亜脱臼歯の暫間固定・固定の解除をする	A,B1-6,B9,11,121,122d,122e,123,125,126,134,242	
		完全脱臼	暫間固定中の注意事項・口腔清掃の説明をする	A,B1-6,B9,111,112,122a,122c-e,123,126,134,211,242		
			脱臼歯の再植の可否と再植歯の予後を説明する	A,B1-5,B7,B9,111,116,121,122b,122d,122e,123,126,134,242		
再植目的に根管充填する			A4,B1-4,B9,121,122a,122b,122d,122e,123,126,134,242			
乳歯	再植した歯の固定・固定の解除をする	A,B1-6,B9,11,121,122d,122e,123,125,126,134,242				
	乳歯の外傷の後続永久歯におよぼす影響を説明する	A,B2-4,B9,111,116,1221,122b,122d,123,126,134,242				
外傷の乳歯における保存・抜歯の判断基準を理解する	A4,B1-5,B7,B9,121,122d,122e,123,126,134					
静脈内鎮静法の手技の習得	病棟管理	静脈内鎮静法施行時、処置後の注意事項を知っている	A4,B1-4,B9,124,126,13,213,241			
		前投薬・拮抗薬の用法・用量・使用目的を説明することができる	A4,B1-4,B9,111,116,123,124,126,13,241			
		静脈内鎮静法の適正な鎮静状態を理解し、経験することができる	A4,B1-4,B6,B9,111,116,123-126,13,213,21,242	3		
		鎮静下に口腔外科処置を受けた患者の病棟管理を経験する		10		
経過評価・管理	術後の評価・予後の推測	下顎骨形成術後の患者の画像評価をする	A4,B2-4,B9,113,122d,126,134,135,242			
		下顎骨形成術後の患者の食事について説明する	A,B2-5,B9,111,116,122d,126,134,135,228,242			
		下顎骨形成術後のプレート除去について説明する	A,B2-5,B9,111,116,122d,126,228,242			
		開窓術の術後経過を理解し、ガーゼタンポン交換を説明、経験する	A,B2-5,B9,111,116,122d,124,126,133-135,242	1		

歯科医師の関連医科研修水準

研修水準	分野	研修項目	記号	
A	研修指導医又は研修指導補助医の指導・監督下での実施が許容されるもの			
	診察	バイタルサインのチェック (Japan Coma Scaleによる意識レベルの評価を含む。)		
		頭頸部の視診、触診		
		胸部の視診、触診、聴診、打診		
		腹部の視診、触診、聴診、打診		
		四肢の視診、触診		
	気道確保	打鍵器などを用いた神経学的診察		
		用手気道確保		
		経口エアウェイの挿入(救急科研修後)		
	人工呼吸管理	経鼻エアウェイの挿入(救急科研修後)		
		BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手工呼吸		
		麻酔器、マスクによる用手工呼吸(麻酔科研修後)		
	循環補助	気管挿管下の用手工呼吸		
経胸壁用手心臓マッサージ				
モニター等	AEDによる除細動(VF/脈無しVT)			
	末梢静脈路確保			
	非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、血圧計など)			
薬物の使用	静脈採血			
	動脈採血(救急科研修後)			
	ACLSのVF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用(救急科研修後)			
その他の処置	創洗浄、創縫合(歯科口腔外科領域のもの)			
	チームカンファレンスへの参加			
B	研修指導医又は研修指導補助医が介助する場合、実施が許容されるもの			
	診察	病歴や現症の聴取		
	気道確保	ラリンジアルマスク(LM)の挿入(麻酔科研修後)		
		胃管挿入		
		気管挿管(麻酔科研修後)		
	循環補助	輪状甲状間膜穿刺あるいは切開(救急科研修後)		
		経胸壁自動式心臓マッサージ装置の使用		
		手動による除細動(VF/脈無しVT)		
	モニター等	大腿静脈路確保(救急科研修後)		
		導尿、バルーンカテーテル留置		
	薬物の使用	ACLSのVF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用(救急科研修前)		
	輸液等	輸液の計画と実地		
		経腸栄養の計画と実地		
その他の処置	創洗浄、創縫合*(歯科口腔外科以外で単純なもの)			
文書の記載・作成	診療録*の記載・作成			
C	研修指導医又は研修指導補助医の行為を補助するもの			
	気道確保	定型的気管切開		
	人工呼吸	人工呼吸器の接続と設定		
	呼吸管理	呼吸理学療法		
	循環補助	内頸静脈路確保		
		鎖骨下静脈路確保		
		経皮ペースメーカーの装着と使用		
	モニター等	優襲的モニターの装着及び検査		
		観血的動脈圧測定		
		肺動脈カテーテル(スワンガンツカテーテル)の挿入留置		
	薬物の使用	ACLSのその他のアルゴリズムで使用する薬剤の使用		
		救急時に使用するその他の一般的薬剤*の使用		
		医薬品全般の使用		
輸液等	輸血、血液製剤の適応判断と使用			
	経静脈栄養の計画と実地			
その他の処置	骨折の副子固定			
	減張切開			
	胃洗浄			
D	見学にとどめるもの			
	診察	胸部、腹部の超音波診断		
	循環補助	開胸心臓マッサージ		
		手動による同期式除細動(AF、A1、PSVT、脈ありVTなど)		
		胸腔穿刺		
		胸腔ドレナージ		
		心嚢ドレナージ		
	モニター等	経静脈ペースメーカーの挿入と使用		
		各種内視鏡検査*		
	文書の記載・作成	各種画像検査		
		指示箋*の記載・作成		
		処方箋*の記載・作成		
		説明と同意の実施と文書の記載・作成*		
死亡診断書、死体検案書*の記載・作成				
その他	その他の診断書*の記載・作成			
	インフォームドコンセント			

*歯科口腔外科領域以外のもの

注1: Bにいう「介助」とは、行為自体に対して行為者(研修歯科医師)の判断が加わる余地がないとは必ずしも言えない状況の下において、当該行為が実質的に機械的な作業とみなし得る程度まで管理・支配を及ぼすことをいい、常時監視を含む。

注2: Cにいう「補助」とは、判断を加える余地に乏しい機械的な作業を行うことをいう。

[歯科医師の医科研修水準]

麻酔科

到達目標(行動目標)のコード記号対応表

歯科医師の麻酔科研修水準

研修水準	分野	研修項目	コード記号
A	研修指導医又は研修指導補助医の指導・監督下での実施が許容されるもの		
	術前管理	一般的な術前診察と全身状態評価	A,B1-7,111-113,116,123-126,131,132,135,213,227,241,242
	術中管理	麻酔器の取扱い	B8,B9,126,132,135,213,227,241,242
		麻酔前準備	B8,B9,116,126,132,133,135,213,227,241,242
		末梢静脈確保	A,B1-6,B9,111,116,123,126,131-135,213,227,241,242
		気道確保(用手またはエアウェイを用いたもの)	A,B1-4,B6,B9,123,124,126,132-134,213,227,241,242
		用手人工換気	A,B1-4,B6,B9,123,124,126,132-134,213,227,241,242
		気管吸引	
		基本的なモニタリング機器の装着と操作	B1-4,B6,123,124,126,132-134,213,227,241,242
	モニタリング項目の値の解釈と麻酔中の全身状態の把握		
術後管理	麻酔後の全身状態の把握	B1-4,B6,126,132-135,213,227,241,242	
	術後酸素療法		
B	研修指導医又は研修指導補助医が介助する場合、実施が許容されるもの		
	術前管理	麻酔管理方針の決定	A,B1,B3-6,B9,112-115,132,135,141,142,213,227,241,242
	術中管理	麻酔導入・気管挿管(ラリンジアルマスク挿入を含む)	A,B1-4,B6,B9,112,113,132,213,227,241,242
		麻酔覚醒・抜管(ラリンジアルマスク抜去を含む)	
		麻酔中の合併症への対応	A,B1-4,B6,B9,123,126,132-134,213,227,241,242
		麻酔中の薬物投与	A,B1-4,B6,B9,123,126,132-134,142,213,227,241,242
		輸液・輸血の実施	A,B1-4,B6,B9,123,126,132-134,213,227,241,242
		手術患者への人工呼吸器の設定	A,B1-4,B6,B9,123,126,132,213,227,241,242
		動脈穿刺・動脈カテーテル留置	A,B1-4,B6,B9,123,126,132,213,227,241,242
	術後管理	術後疼痛管理	A2,A3,B1-4,B6,B9,123,126,132,133,135,213,227,241,242
	麻酔後の合併症への対応(侵襲的処置を伴わないもの)	A2,A3,B1-4,B6,B9,112,113,123,126,132-135,213,227,241,242	
C	研修指導医又は研修指導補助医の行為を補助するもの		
	術中管理	中心静脈・肺動脈カテーテルの挿入	
		経食道心エコー装置のプロブ挿入	
	術後管理	麻酔後の合併症への対応(侵襲的処置を伴うもの)	
	局所麻酔	硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔	
	ペインクリニック	局所麻酔薬・神経破壊薬を用いた神経ブロック	
集中治療	ICU収容患者の管理(長期人工呼吸管理を含む)		
D	見学にとどめるもの		
	術前管理	インフォームドコンセント	
		術前指示書の記載	
その他	上記以外で研修指導者が実施するものでなければ危険性を伴う専門性の高い技術		

■下記の項目を、1年次の歯科基礎Ⅰ・歯科基礎Ⅱの期間中に経験し、症例数を研修歯科医手帳の「医科麻酔科研修を希望する歯科医師の研修歴、臨床経験及び知識・技能評価」に記載して、提出すること。
医科麻酔科研修を希望する歯科医師の臨床経験(見学を除く)

内容	経験症例数
全身麻酔	例
静脈内鎮静法	例
吸入鎮静法	例
バイタルサインモニタリング	例
外来主治医	例
病棟主治医	例
その他(例
その他(例

歯科医師の救命救急研修水準

救急科

到達目標(行動目標)のコード記号対応表

研修水準	分野	研修項目	記号	
A	研修指導医又は研修指導補助医の指導・監督下での実施が許容されるもの			
	診察	バイタルサインのチェック (Japan Coma Scaleによる意識レベルの評価を含む。)	A,B,111,113,123,124,126,132-135,213,241,242	
		頭頸部の視診、触診	A,B,111-113,123,124,126,132-135,213,241,242	
		胸部の視診、触診、聴診、打診	A,B,111,113,123,124,126,132-135,213,241,242	
		腹部の視診、触診、聴診、打診	A,B,111,113,123,124,126,132-135,213,241,242	
		四肢の視診、触診 打鍵器などを用いた神経学的診察	A,B,111,113,123,124,126,132-134,213,241,242	
	気道確保	用手気道確保		
		経口エアウェイの挿入	A,B1-6,B9,123,124,126,132-135,213,241,242	
		経鼻エアウェイの挿入		
	人工呼吸管理	BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手工呼吸	A,B1-6,B9,123,124,126,132-135,213,241,242	
		麻酔器・マスクによる用手工呼吸		
		気管挿管下の用手工呼吸	A,B1-6,B9,126,132,133,213,241,242	
	循環補助	経胸壁用手心臓マッサージ		
		AEDIによる除細動(VF/脈無しVT) 末梢静脈路確保	A,B,123-126,133-135,213,241,242	
モニター等	非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、血圧計など)	A,B1-7,B9,111,116,123,124,126,133-135,213,241,242		
	静脈採血 動脈採血	A,B1-7,B9,111,116,123,126,134,135,213,241,242		
薬物の使用	ACLSのVF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用			
輸液等	救命救急センター、救急部における救急輸液の実地	A,B,123,124,126,132-135,213,241,242		
その他の処置	創洗浄・創縫合(歯科口腔外科領域のもの)	A,B1-7,B9,11,112d,123,126,132-135,213,2421,242		
その他	チームカンファレンスへの参加	A,B1-3,B5-7,B9,135,141,142,213,221,222,228,24		
B	研修指導医又は研修指導補助医が介助する場合、実施が許容されるもの			
	気道確保	ラリッジアルマスク(LM)の挿入	A,B1-6,B9,112,113,132,133,135,213,241,242	
		胃管挿入 気管挿管		
		輪状甲状間膜穿刺(あるいは切開)	A,B1-6,B9,112,113,132,133,213,241,242	
	循環補助	経胸壁自動式心臓マッサージ装置の使用	A,B,113,126,132-134,213,241,242	
		手動による除細動(VF/脈無しVT) 大腿静脈路確保	A,B,113,123,126,132-135,213,241,242 A,B,113,126,132-134,213,241,242	
	モニター等	導尿、バルーンカテーテル留置	A,B,111,116,126,132,135,213,241,242	
	輸液等	輸液の計画と実地 経腸栄養の計画と実地	A3,B1-7,B9,112-114,126,132,134,135,213,241,242	
		その他の処置	創洗浄・創縫合(歯科口腔外科以外で単純なもの)	A,B1,B3-7,B9,111-113,116,123,126,213,241,242
	文書の記載・作成	診療録の記載・作成(歯科領域以外)	A,B1-4,125,213,241,242	
その他	病歴や現症の聴取	A1-3,B1-7,111-113,132,213,241,242		
C	研修指導医又は研修指導補助医の行為を補助するもの			
	気道確保	定型的気管切開		
	人工呼吸	人工呼吸器の接続と設定		
	呼吸管理	呼吸理学療法		
	循環補助	内頸静脈路確保 鎖骨下静脈路確保		
		経皮ペースメーカーの装着と使用		
	モニター等	侵襲的モニターの装着及び検査 観血的動脈圧測定		
		肺動脈カテーテル(スワンガンツカテーテル)の挿入留置		
	薬物の使用	ACLSのその他のアルゴリズムで使用する薬剤の使用 救急時に使用するその他の一般薬剤*の使用		
		医薬品全般の使用		
	輸液等	輸血、血液製剤の適応判断と使用 経静脈栄養の計画と実地		
		骨折の副子固定		
	その他の処置	減張切開 胃洗浄		
D	見学にとどめるもの			
	診察	胸部、腹部の超音波診断 開胸心臓マッサージ		
		循環補助	手動による同期式除細動(Af、Af、PSVT、脈ありVTなど) 胸腔穿刺 胸腔ドレナージ 心嚢ドレナージ 経静脈ペースメーカーの挿入と使用	
	モニター等		各種内視鏡検査* 各種画像検査	
			文書の記載・作成	指示箋*の記載・作成 処方箋*の記載・作成 説明と同意の実施と文書の記載・作成* 死亡診断書、死体検案書*の記載・作成 その他の診断書*の記載・作成
	その他			インフォームドコンセント